

東京大学
蔵書

門外
第393
卷1

蔵書

明治二年己丑冬

大正

世界万国



福澤諭吉譯述

慶應義塾
蔵書

世界國盡序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
 其ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則テ天
 下ノ禍福ハ其源盖シ他ニアラス國民一般ノ知
 愚ニ係ルヲ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
 盡ノ著アルモ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
 ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
 下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
 及ヒ合衆國ヨウヨル州ノ士人ゾルプランク

序

明治二年己丑年十月三十日拜領
 明治七年八月十日分給子氏寄贈

蔵書

氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ル_レ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文章華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ尠カラス
然リト雖_レ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スル片ハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラシ何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カン

我合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ
サルモノナシ例ヘハ_レヨウヨルク州ニ於テハ
闔州ヲ九千區ニ分テ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但_シ五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ
此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コレヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ

近來ニウヨルクニ於テ人物ヲ選舉スルヲア

リテ其時入札ヲ投シタルモノ三十余萬人ナ

リシ奉行ナドノ選舉ナラン蓋シ再後三十年ノ星霜ヲ過

キナハ此人負ノ大半ハ物故シテ繼テ其身分

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教ヲ受ル兒童ナラン

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體裁ヲ寛大ニスト雖正議政其法ヲ巧ニスト雖

臣治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハサルヲ遠シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻サルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ナラ
シ先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ愛孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ

前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導
シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此
教ニ由テ功ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ
リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増
加スルヲ毎年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ

去リ小説ニ惑ハスレテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ
及フ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
乙巳八月

福澤諭吉 譯

九例

一此書は世間ニ行ハレ翻譯書ノ風ニ異ナルとも
其實ハ皆英吉利亞米利加ニて開版シタル地
理書歴史類ヲ取集メその内ヨリ肝要ノ處ニ
於テ通俗ニ譯シタルものニ私ノ作意ハ毫も
交ヘズ

一西洋ニハ年号ナシ其國ノ宗旨ノ改リタル年
を元年ト定め明治二年ハ彼千八百六十九年
ニ當ル

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億
百億と十倍ワ、此位ヲ次弟ニ計ヘ上ルナ
リ
一英の一里ハ千七百六十ヤロ、トモ一ヤロ
ソドハ日本ニ三尺少一余アリ故ニ其一里ハ
日本乃十四丁四十間余ニ當ル英の地理の里
法ハ少一長く其一里は二千二十五ヤロ、ト
ニ當ル即ち南北緯度の一度を六十ニ分チ其
一分の長さナリ

一地名人名等は西洋の横文字を讀テ畧との音
ニ近キ縦文字を當ルニナレハ古來翻譯者
此思々色々乃文字を用ヒ同ト土地ニても
二も三も其名何々似たり又或ハ唐人の翻
譯書を見て其譯字を真似ナリト何リハレ
ハ唐ニ文字の唐音以テ西洋ニ字音ニ當テ
る也へ唐音ニ明クハ學者達ニハ分るベけれ
とも我々共ニも少一モ分り故ニ此書中ニ
ハ勉テ日本人ニ分り易キ文字採用ス中少

せり實ハいろは計り用ても濟むべき筈なれ
ども本字を記して服へ假名を附けハ記憶を
ふ便利かり譬へは南亞米利加にべりゆ
ふとりの小處へ平柳と記し何れは勘平の平れ
字と揚柳に柳の字なりと憶ふ記しておぼへ
易しり固より論もふ足る辯輕乃辯の字
は辯慶の辯の字なり論頗の論の字ハ論語の
論れ字かり大抵これ趣向よく譯字を下した
れども多くは譯書中ふ普通なる文字ハ無理

ながりも其まゝ用て傍ふ假名を附ふれハ讀
者其本字を當ふせりして假名の方を記憶を
す

一近年までは日本人も英文を讀み得と和蘭の
書の之を翻譯せりゆへ地名も蘭人の唱と
英人の唱と同トしゆゆゆ由て譯字の相異
もそののあり譬へハ昔日蘭書の翻譯文中
窩々所徳禮幾と記したるりのを今ハ填地利
とひ古の獨逸を今ハ日耳曼といふが如き

ハ事實トダラニ於カテ變カルルニ至ルナリ唯ト近キ來ルハ英書流
行クルルニ英ノ唱スニ從フルルニ

一地名人名海河等ノ名ヲ其ノ文字ノ上ニ下ニ「」
の如ク印ヲ附シテ區別セリ

一書中ニハハフフノ假名文字ニ圓キ濁点を附シ
けてハハフフと記スナリ何レハハフフハハフフ
フフハハフフ又ハフフハハフフハハフフ
のフハハフフハハフフハハフフハハフフ

目録

一の卷

發端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の卷

阿非利加洲

同頭書圖入

三の卷

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の卷

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の卷

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の卷

地理學の總論

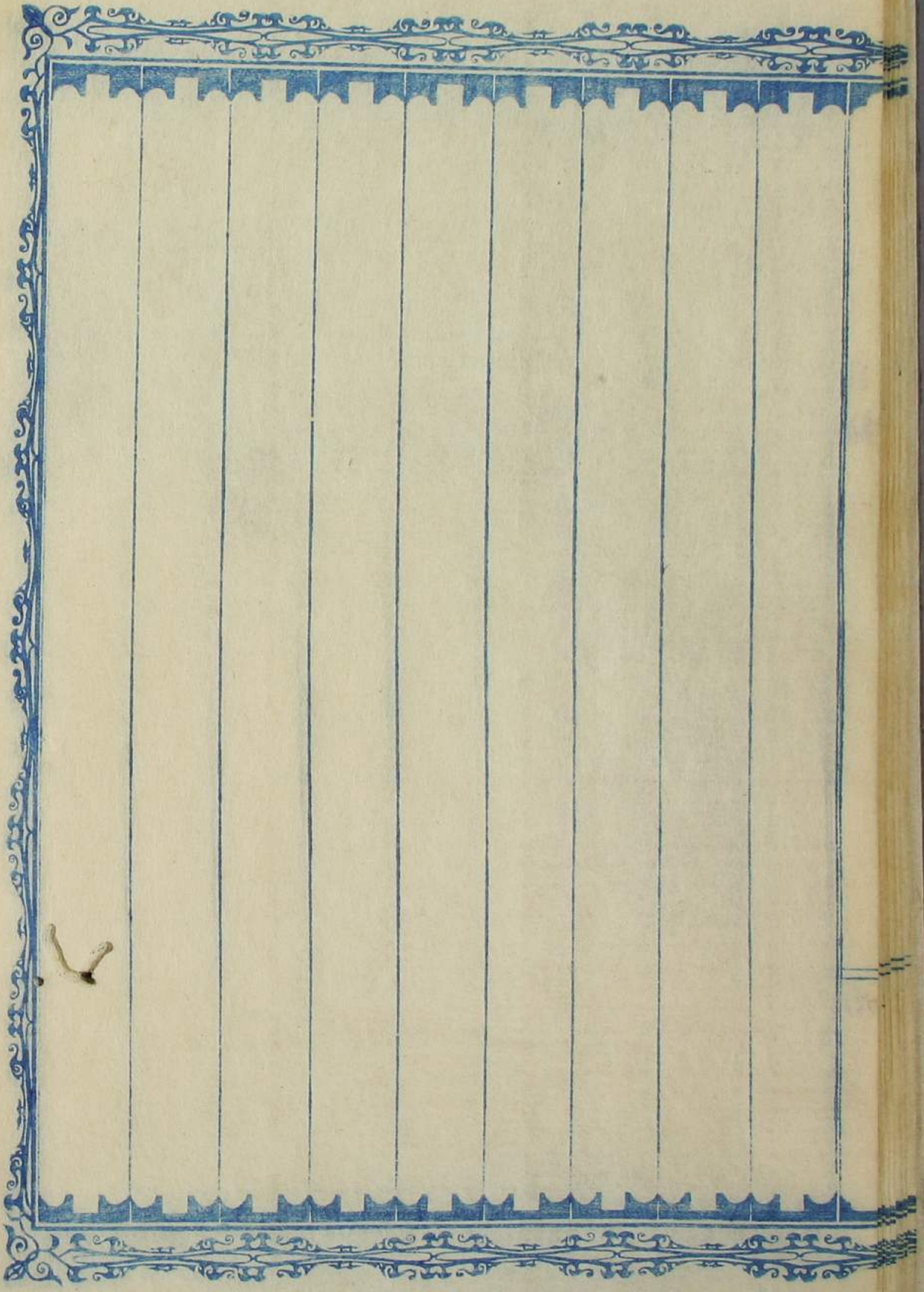
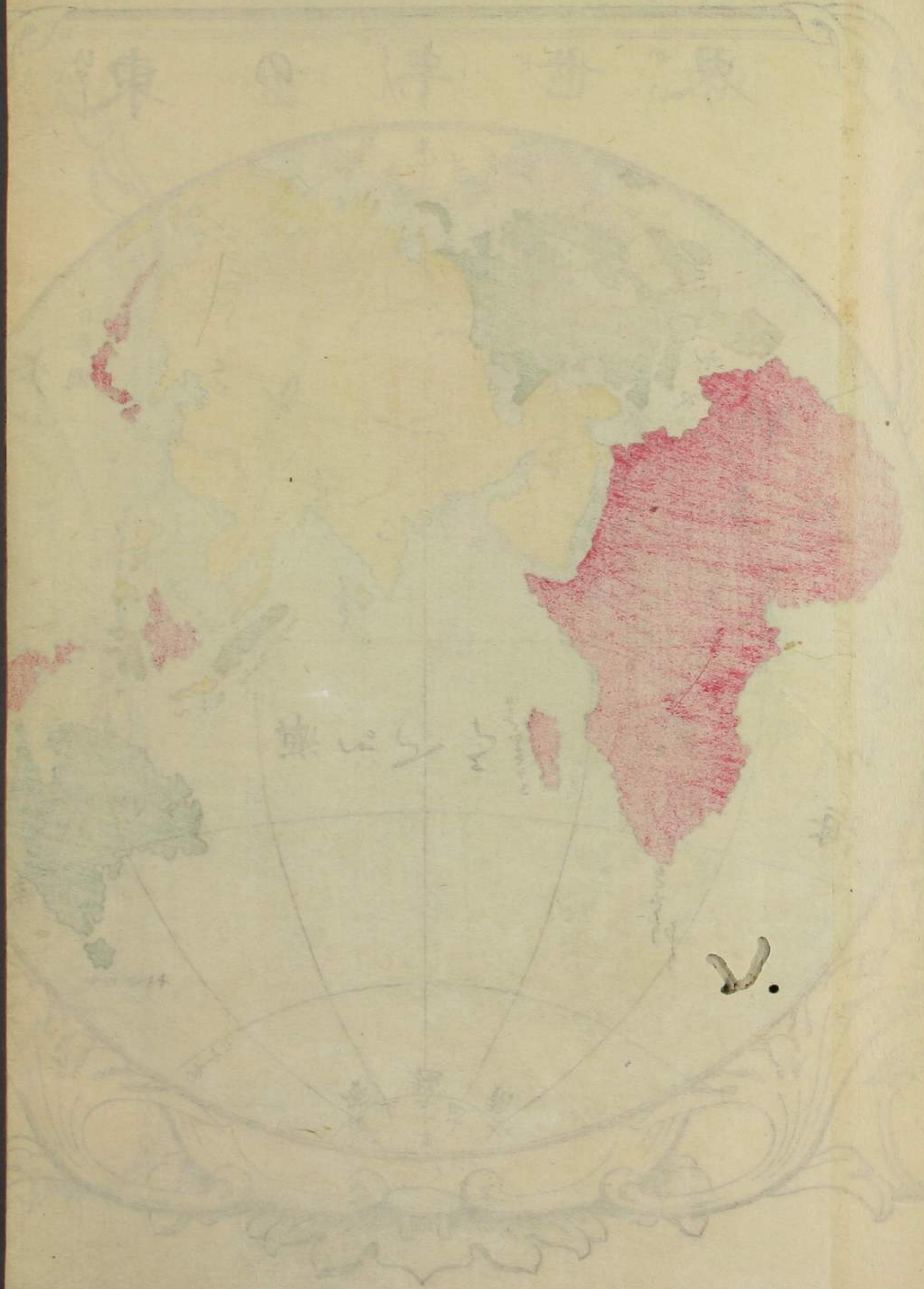
天文の地學

自然の地學

人間の地學

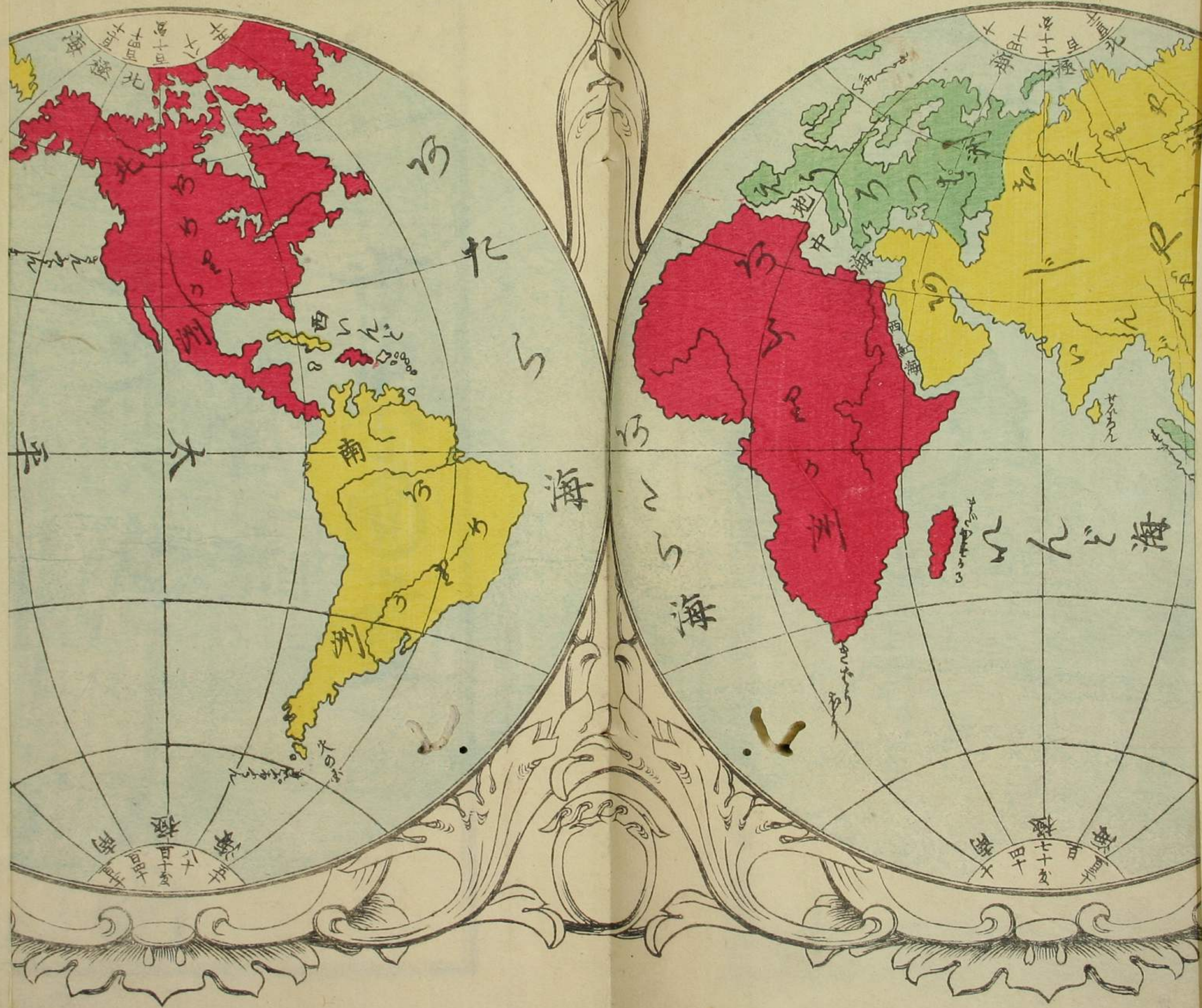
目錄終

陳國博書院



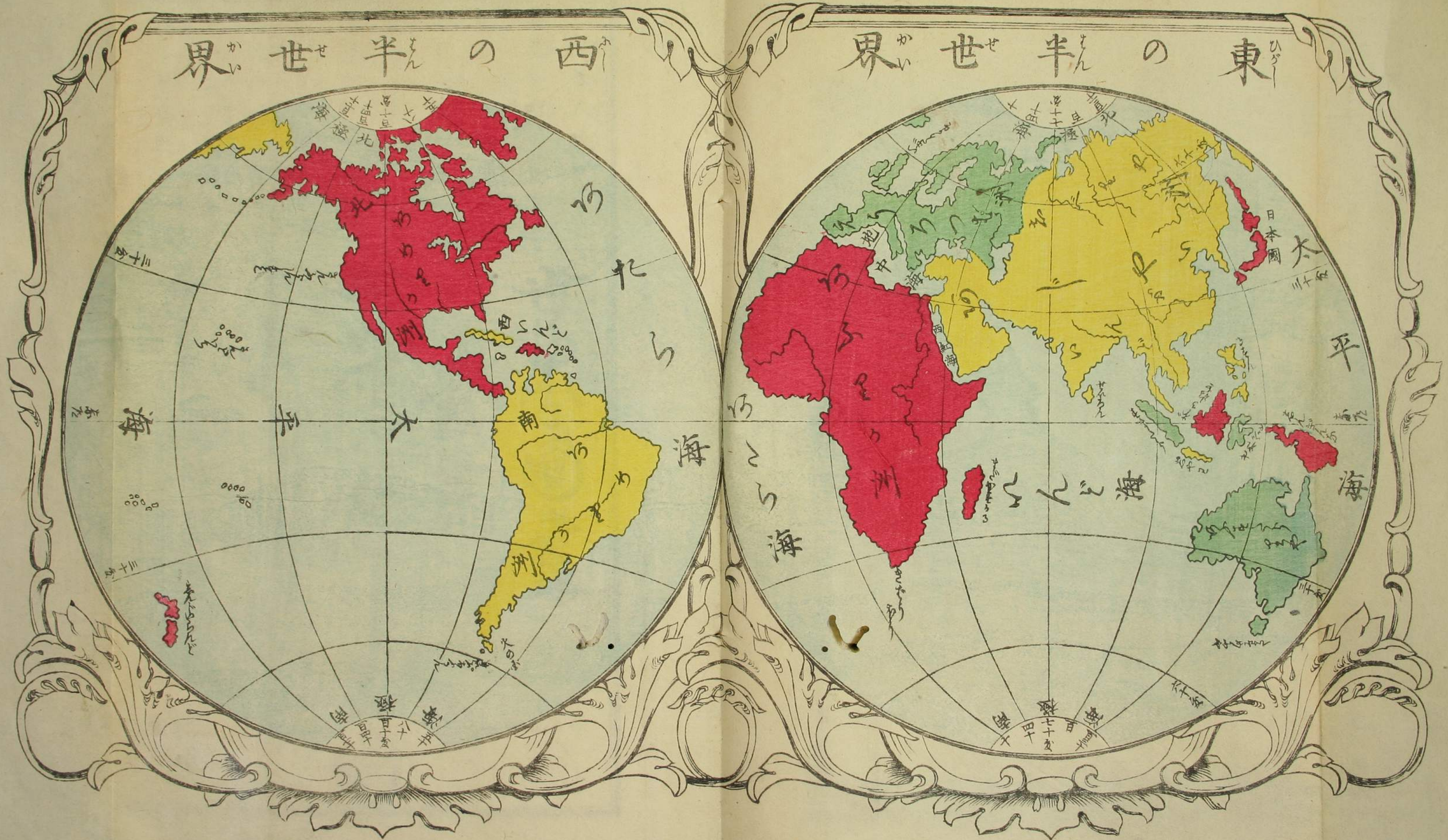
世半の西

界世半の



西の半世の界

東の半世の界



八日本の十四町四
 十三間又當る
 世界中の人の數ハ
 九十億又近一國々
 の土風亦由て面色
 も同トかゞぞ知愚
 一様を以て其區
 別と五種と分ち世
 界中亦多少の割合
 左の如し

亞細亞河非利加歐
 羅巴北と南の亞米
 利加と環の北と南
 五大洲大洋海は別
 々として南の島あり

歐羅巴の人種ハ色
 白し其數四億二千
 萬人
 亞細亞の人種ハ色
 少しく黄り其數
 四億六千萬人
 亞米利加の山々住
 する人種ハ色赤し
 其數一千萬人
 阿非利加の人種ハ

名稱なるも土地の風
 俗人情も亦變り
 異なるも其の
 氣配も亦異なる
 也

色黒一其數七千萬
 大洋洲に住す島
 人ハ茶色其數
 四千萬人
 亞細亞洲の事
 細亞の土地の廣
 さハ千五百五十
 萬坪人の數六億人
 五大洲の中より一

そひて得人きこれ
 水之文孝一格ふ
 音孝子一庭の事
 始まら筆とらそ大
 略致志もは河

びんの大洲なり



廣き亞細亞の内
 人の種類も色々
 おりまども蒙古人
 の種として其種族最
 も多し或ハぬれと

亞細亞洲

地球の北極

西に先

水は帰る

乃海環は端れ

亞細亞人種といふ
 氣候も北方志邊里
 や屋の方ハ甚ど寒く
 天竺の南ハ至きまで
 赤道近く甚ど熱く
 禽獸草木もあまふ
 準トて異なり
 ○支那の廣さハ五
 百二十萬坪人の數
 四億都の名を北京

浮世はふた大平海
 の西は才亞細亞海の
 東は我日本始と
 西の「一」と東の
 乃國と云ふなり



といふ國中の男子
 ハ皆けし坊主なり
 始て見る人ハ甚
 とうしく思ふ

支那ハ亞細亞北
 國人は杉多し花
 くみ多し印皮地
 魯日西亞東の「大
 平海」を居る

支那の産物ハ絹布
木綿瀨戸物其外象
牙細工等小間物多
く珠茶ハ此の國
の銘産物毎
年外國一積出
るは九
億斤ハ近
く一
歐羅巴亞米利加
ハ茶園ハ其の
國々の人の用る茶

日本國九州紀前
長崎支那の東
岸の上海海路僅
三百里蒸氣船ハ
水ハ十ハ噸を費

香港の港景



ハ支那と日本
積出る品

一、生々帰る解
南ニあり香港ハ
英吉利領ハ一孤島
一、利一、新
高賣銀ハ此

支那ハ旧き國にて
 往昔ハ大造り事
 成しとるもの
 北京と南の
 方杭州府と通船
 の堀割も長さ三百
 里餘を北の方
 ハ萬里の長城とて
 長さ土堤を其高
 一丈五尺より三

支那の東洋一に港
 支那の物
 活古陶器の時代
 あり年以餘とて四
 十歳仁義に常重

大谷小跨り山と越
 一六百里の長さ
 及び當時ハ固よ
 修覆もふく崩
 次第れども珍
 き古跡として西洋
 人ハ折々見物
 此長城ハ二千
 年前秦の始皇帝
 胡と防ぐため築

人情厚く風
 存高
 文の
 風俗
 徳を

さいものあり
 今より二千三百年
 前支那は孔子とい
 へる人の名高き
 學者にて門人も多
 く著作の書も段々
 後の世に傳へ支那
 ハ勿論日本までも
 人の人のあつと聖
 人として尊敬せしむ

初はみくは我も孝
 句よ人ありと苦言知
 らし乃高枕暴天
 來りてをすせり我
 抑へし忌改の天罰



支那の政事の立方

適るるは学は長く以
 天保十二年癸亥利玉
 と和成起し唯一戦
 とありて和睦なり
 償洋銀三百萬五

つせらるゝ其後り始
終外國人おふそは
けらるゝよし
○前印度と後印度
とハ鷹寺洲といふ
河を以て界とせり
此河の畔ハ阿羅波
婆土といふ釈迦如
來の靈地なり今小
ても毎年諸方より

るがハ後印度及東の各
を前印度よりなり名
高の(星)國とハ暹羅
安南尾留滿玉其又
西(亞)國政府を

参詣の人二十萬人
の餘りといふ

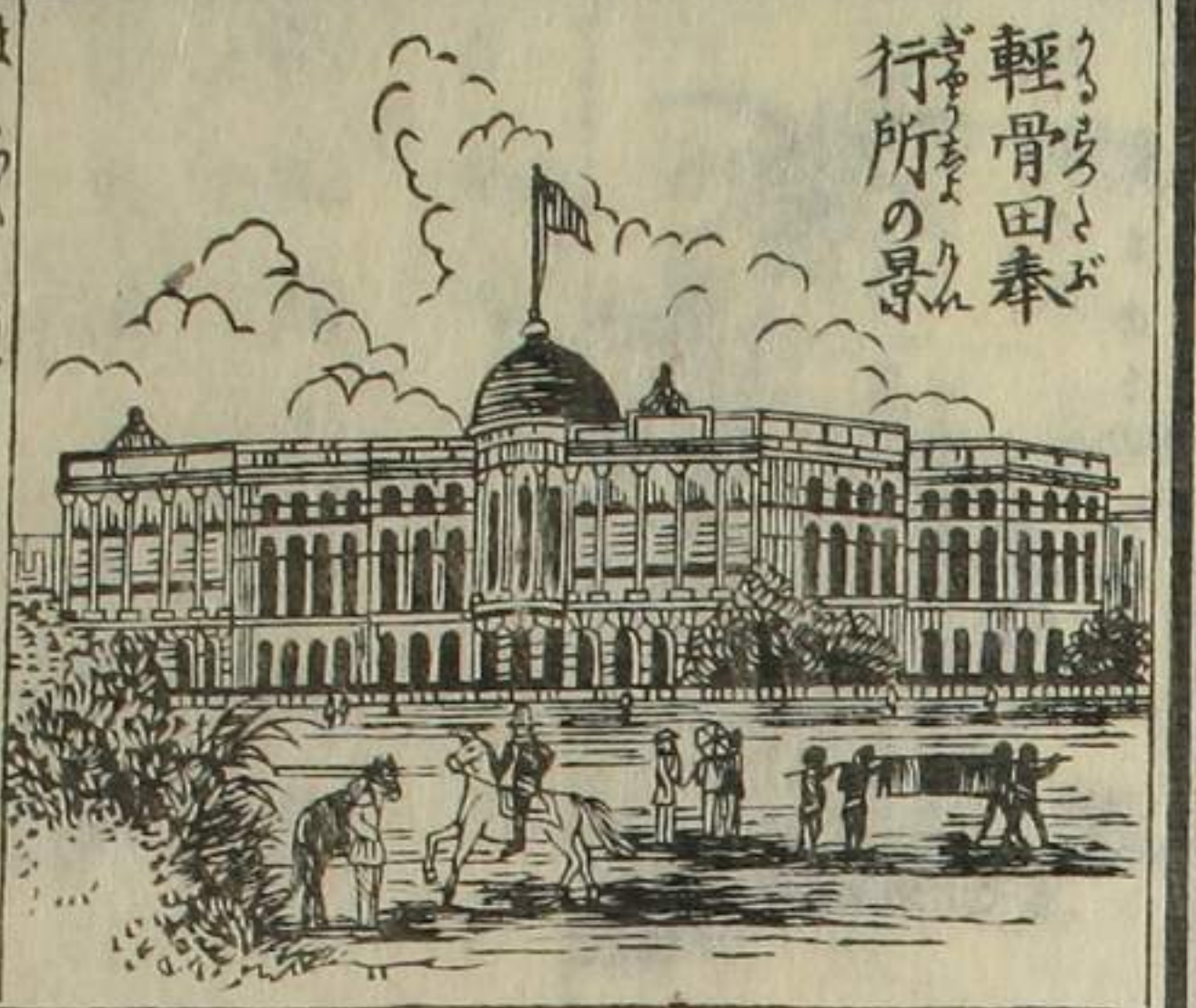


とハ一(人)とハ一(人)
氣(一)とハ一(人)
西洋人の悔(一)受(一)
計(一)の(一)暹(一)
羅(一)と(一)尾(一)留(一)滿(一)の(一)各(一)の(一)各(一)

後印度のあとと西
洋人のひんどま
んといふ大抵残ら
む英吉利領あり唯
其北の方より獨立國
と唱へ英の支配と
受ざるもの二三國
ありのその前印度も
西の方より英の支配
下なり

下よりとみまらるる長
北満首花、漢唐
多良嶋とま對し東
西僅う二千餘里間
北海、楚澤、海花の

輕骨田奉
行所の景



滿落花の南の端より
新賀堀といふ小島
あり英吉利領の港
あり諸國の船の立

瀬戸と名付し海
舟の往来、賑しく
濃戸、北の島をいふ印度海
北、白と雜糧の八海
深く入る免ふ粟の河

寄る所なり
後印度の南の端
西論といふ島
を同トく英領
に港あり此嶋
釋迦誕生の地
といふ



の東岸に并た都
「種骨田英吉利領の
惣奉行印度北方を
交りし軍艦高船
数多あり典細身法玉と英

印度の産物ハ材木
米麥砂糖蜀黍麻藍
烟草胡椒阿片黄金
鉄銅珠玉の類且
の地ハ春夏殊冬の
差別ナリ暖國也
色々珍らしき菓實
多し獸類ハ獅子
犀象虎又恐ろしき
大蛇蟒ふとえ山

吉利双威勢あり也
るるをりし前印度
度れ領地とす
印度れ西の國とす
河英賀仁波丹玉苗

居るよう



○邊留社ハ舊國カ
もと元來人氣粗
く政事向暴虐ホ

在漢丹、
の尾留知漢丹、
國の石河、
依程、
進、
邊留社

て下々の取扱より
からざるや一國
の力次第ハ衰一當
時ハ至てハ文武と
もハ引立ビ千八百
十三年ハ文千八百
二十八年ハ文十魯
西亜と戦ハ兩度と
も敗北して大ニ土
地と失つて近來ハ

世ハ所謂吉國
王紀元以前六百年
白洲五、
の玉を、
威、
威、
威、

英國と交して英の
士官と雇ひ武備と
整うよーやう



一 次々 二 三 三 傳 奉
氏 福 之 物
可 蒙 古 之 改 正
北 千 年 有 名
政府 之 改 政

○ 荒火屋の大國か
せども砂漠とて邊
えなく廣き砂原ゆ
て且氣候ハ熱く
兩ハ少く住ふも宜
しからざる地なり
されども平地ハ
草木よく生長を産
物ハ藥種菓實ハ
の類多し獸類ハ

富 紀 北 世 之 以
多 百 年 之 入 海 魚
西 之 三 砂 漠 廣
荒 火 屋 國 南 之 奇

馬駱駝珠のりらび
やの馬とてハ既ハ
日本ハも渡り世界
中の名馬有り此國
ハ風倍りくあり
盜賊多きゆ一國の
人々廣き砂漠を越
て旅行するハ大
勢駱駝を乗て武器
と携つて通行する

下 意火屋海北冬
土留吉二塚一と西
冬互由立れ障の陸
彼岸望めは河冰利
加海中成層る



○土留古の領介ハ

西紅海との南北地
陸、東洲の北峡也
名え高兒下百里と
星の鉄道北北
水、地中海亞細亞

歐羅巴と亞細亞と
 の二大洲を跨る地
 中海と黒海との間
 の瀬戸と以て界と
 せし故に亞細亞の
 方より飛地と亞
 細亞土留古といひ
 歐羅巴の方より
 本領を政羅巴土留
 古といふなり當時

河洲利加歐羅巴
 玉塚地中海
 亞細亞
 屋兩屋羽禮次多
 院惣名要西五土留

ハ土留古の政事不
 取締ふ飛地の領
 介は八度々騷動
 ○魯西亞も歐羅巴
 と亞細亞と地續
 て兩方又領分
 二大洲の界ハ宇良
 留山なり志邊里屋
 小ハ馴鹿といふ鹿

吉々々土留古
 欣地多々
 志邊里屋も亞細亞
 北々々々々々々々
 宇良苗北林鹿

此もて馬の代は用
也又一種の犬は
らもも牛馬の如く
車と引くといふ



本は倭を無利か
近くもあふ瀬
戸は水のみを交
那はひを北を
邊は北極海東西

志邊里屋ハ土地廣
けまども人少く三
百萬人お過む土人
ハ獵と渡世とせし
又宇良留山の邊は
ハ金銀の山多く會
西亞の本國を罪
人と移して夥しく
金と堀出るといふ
志邊里屋の産物ハ

一、五百餘里南北
凡、八百里西亞の領
地の廣大ハ世界第一
此類は名
紀奉行所ハ西

嘉無薩加の景



物互々交易
場亦々廻り
河瓦々建一
府我日本
煙々々々々

獸皮を賣買城の
交易亦皮を以て
支那の反物瀬戸物
易々と以て
嘉無薩加の港とて
いふ所の處に東
の方魯西亞領の亞
米利加へ往來の海
上甚と近し

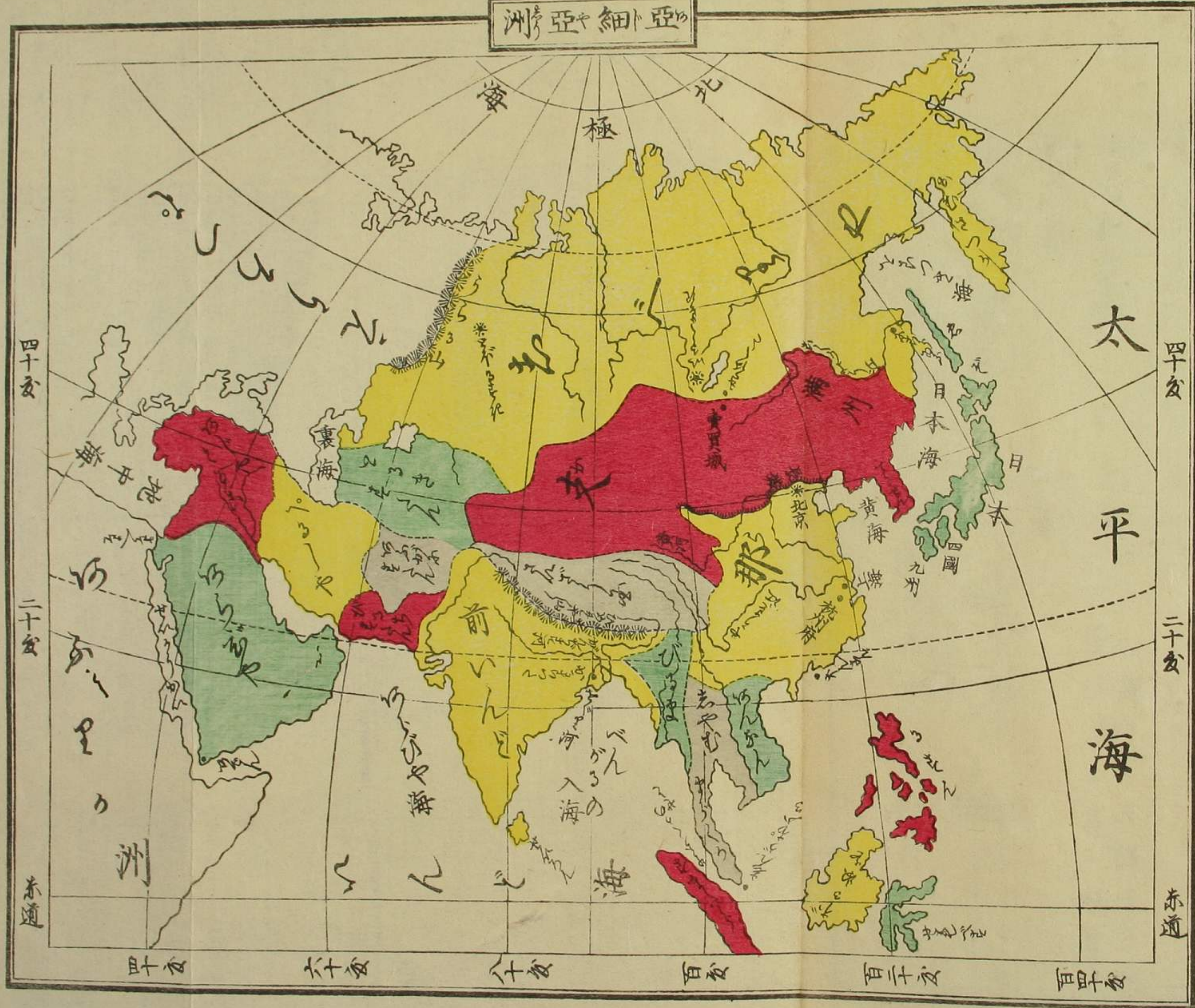
玉筋一戸係留
東國筋ふ伊留
南境の喜河
賣買城の
支那と魯西亞の

魯西亞の政府ハ昔
 地面を廣くま
 ちあし小心掛け進
 年ハ又滿州の地を
 取て専ら黒龍江の
 邊お手をへも軍艦
 も始終碇泊し河小
 ハ小形の蒸氣船を
 浮べて運送の便利
 と達せり

國 東の... 海... 突... 加... 亞... 細... 豆... 丸... 末...
 け...



洲亞細亞

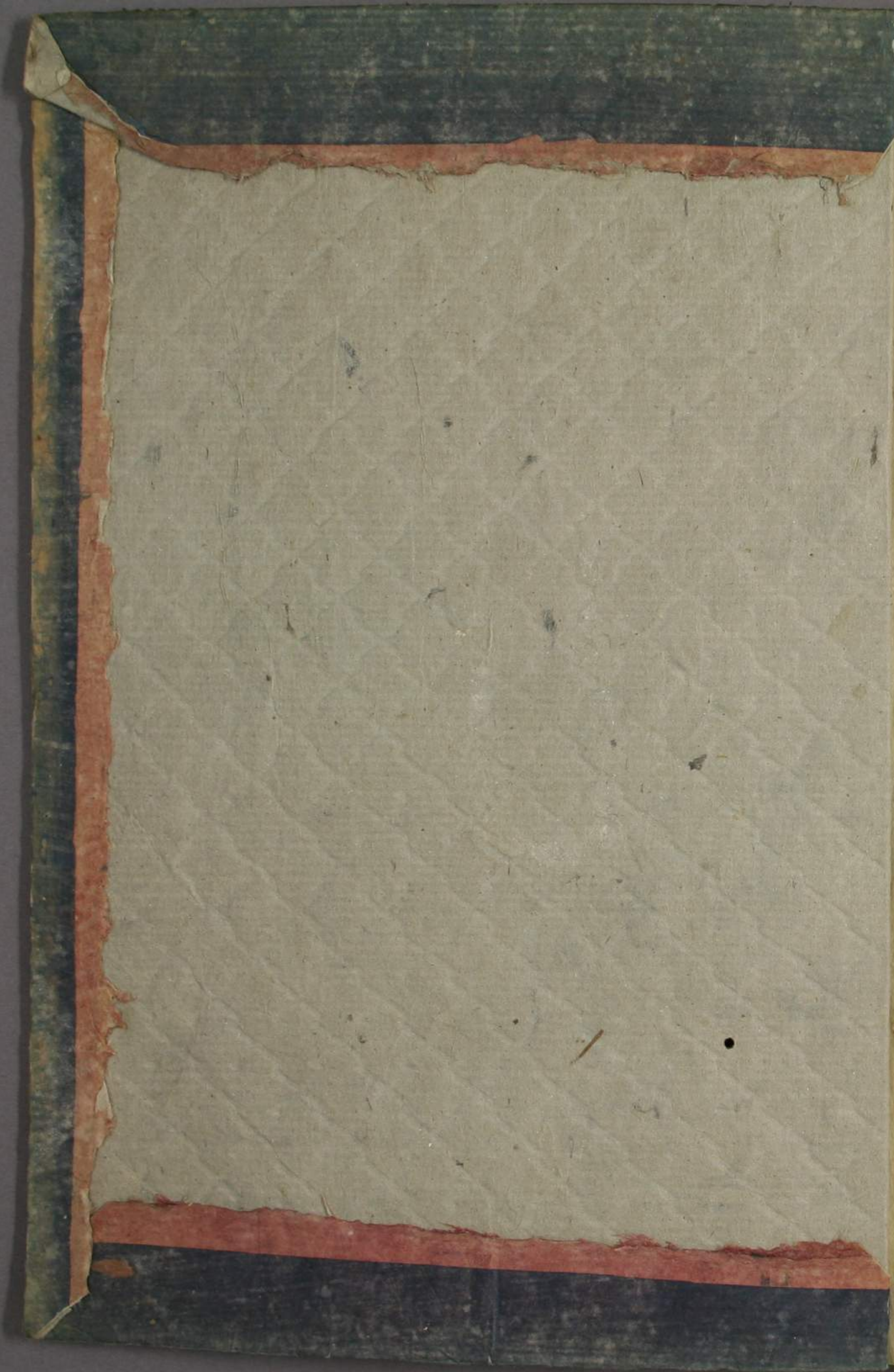


慶應義塾蔵版目録

西洋事情	初篇	三冊	上方の偽版三四様有りて 方今も偽本と賣買セリ
同 二篇		三冊	既脱稿
同 外篇		三冊	
西洋旅案内		二冊	此れも偽版二三様有り或 は事情次第も偽り
同 外篇		一冊	
條約十一國記		一冊	此れも偽版二様有り或 り偽本の賣買盛なり
西洋衣食住		一冊	例の如く
華英通語		一冊	偽本沢山

英文熟語集	一冊	
雷銃操法 初篇	一冊	此卷も偽版の導り他の
同 二篇	一冊	例は從へば實説あるん
同 三篇	一冊	勿論右同
洋兵明鑒	五冊	
室扶斯新論 醫書	二冊	
窮理圖解	三冊	
天變地異	一冊	
英議事院談	二冊	
萬國一覽 袖珍	一冊	

英文典	一冊	
博物新篇補遺	三冊	
旗章說畧	一冊	
清英交際始末	二冊	
英軍艦刑法	一冊	
頭書 世界國盡	六冊	
西洋 錢穀出納表	一冊	
各國 錢穀出納表	一冊	
生産道案内	二冊	脱稿



Blank page with a faint blue rectangular border. The text within the border is extremely faint and illegible, appearing to be a list or index of entries. The page is otherwise blank and shows signs of age, including small dark spots and a slightly yellowed tone.

